

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500271		
法人名	社会福祉法人光仁会		
事業所名	グループホームさるびあ		
所在地	周南市城ヶ丘3丁目6番1号		
自己評価作成日	平成30年8月28日	評価結果市町受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとの行事や個別での外出支援に力を入れ、希望に応じて個別で買い物を楽しんだり、季節の花見やドライブに出かけ季節を感じながら気分転換を図ることが出来た。全ての入居者を対象に、ユニットごとに動物園へ出かけ、動物の見学や昼食など一日を通して楽しんで頂くことが出来た。ハッピードリームサーカスの観覧では、体調に合わせて支援し、生まれて初めての体験に大変喜んでいただくことが出来た。また、季節感あふれるおやつ作りや昼食作りでは、鍋やホットプレートを使用して様々な昼食作りを充実させ、毎日の食事が楽しみの一つであるように力を入れている。職員主体ではなく利用者主体で、自発的に利用者同士が協力して活動できていることがアピールしたい点である。またここでの生活に張りや楽しみを感じ、安心した生活の継続が出来るように心がけて支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は、三食とも法人からの配食を利用されています。食器は料理一品毎に、料理に合わせてものを使用しておられ、見た目からも利用者が美味しく食べられるように盛り付けに工夫しておられます。月一回以上の食事づくりでは、利用者と職員と一緒に食材の購入から、調理(洗う、切る、煮る)をされたり、おやつづくりは月2回以上しておられ、いろんなめずらしいものをつくって楽しんで食べておられます。利用者の希望に応じてサーカスの観覧や動物園の見学、季節の花見、喫茶店でのおやつタイムなど、戸外に出かけられる支援や、併設のデイサービスセンターに訪れているボランティアとの交流など、外出や事業所内でも、楽しみがあるように支援しておられます。職員は、外部である研修に多く参加され、スタッフ会議で復命して共有されたり、法人研修や内部研修など計画的に、職員が学べる機会を確保しておられ、働きながら技術や知識を身につけていくように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所基本方針と事業所重点目標を、スタッフ会議の中で共有するとともに職員室やユニット内に掲示することで、認知症高齢者のケアの専門職としての自覚を促し、職場全体で実践に努めている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義をふまえた法人の理念を事業所の理念としている。その理念を基に、事業所基本方針と事業所重点目標を作成し、事業所内に掲示している他、スタッフ会議で共有している。重点目標は、毎年、見直して、新たな目標を作成して、管理者と全職員とで共有し、日々のケアの中で実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>利用者と職員は地域の一員として、季節ごとの地域のイベントに積極的に参加することが出来た。地域のボランティア活動の協力を得ながら、地域の方との交流を図ることが出来た。</p>	<p>地域の自治会に加入している。管理者は、地域である行事(夏祭り、桜木フェスタ、どんど焼きなど)の実行委員として、会議に出席したり、事前の準備や開催当日の協力をしている。利用者は、当日参加し、地域の人と交流している他、小学校の運動会に招待され、小学生と一緒に競技に参加して交流している。法人の地域交流スペースを活用して、2ヶ月に1回、地域の「ふれあいいきいきサロン」が実施されており、利用者が参加して七夕飾りをつくって、一緒に飾りつけをして交流している。事業所には、ちぎり絵のボランティアが来訪している。法人主催の夏祭りでは、地域の人が来訪して、カレーやたこ焼きづくりなどの協力をしているなど、事業所は、地域との関係づくりに努めている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域行事実行委員会に所属し、会議に参加して夏祭りや桜木フェスタなどの、事前の準備や当日のお手伝いを行った。認知症の理解や関わり方について、見学や相談に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	平成29年度の評価に基づき、目標達成に向けて具体的に取り組み改善に努めた。職場全体で取り組む内容として、外部評価の意義をスタッフ会議で説明し理解を深めた上で、各職員が自己評価に取り組み、実践状況の把握に取り組んだ。	管理者は、全職員に対して、スタッフ会議で評価の意義について説明し、各職員が夫々に自己評価に取り組んでいる。管理者、ユニットリーダー、サブリーダーで話し合っまじめ、自己評価を作成している。自己評価の過程で、外出支援や食事支援、施設内での楽しみごとについての課題について話し合い、今後、重点的に取り組むこととしている。前回の外部評価結果を受けて、スタッフ会議で話し合い、目標達成計画を立て、消防署職員の協力を得ての応急手当や初期対応で、誤嚥についての研修を実施している他、看護師による研修実施など、評価を活かしてできることから改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で評価や取り組み状況の報告を行っている。実際に利用者に参加して頂き、委員や地域の方との意見交換の場として活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催している。併設のデイサービスセンターや地域密着型型介護老人施設と合同で行っている。事業所の日々の活動や取り組み、利用者の状況、事故報告、外部評価結果などの報告をし、参加者からの質問を受けたり、情報交換をしている。家族の参加は得られていないが、事業所での日々の様子を話して参加者と意見交換をしている。情報交換の中での情報や意見交換で出た意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂くことにより、事業所の取り組み内容について報告を行っている。必要に応じてその都度相談しながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換したり、書類提出などで出向いて相談等をして助言を得たり、電話やメールで情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換しているなど連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的実施する内部研修で、身体拘束に関する理解を深めることで職場全体で身体拘束防止に向けて取り組んでいる。平成30年5月から身体拘束防止対策委員会を設置し、具体的に精査し身体拘束防止に取り組んでいる。玄関の施錠については防犯面から夜間のみ実施している。	職員は、身体拘束について、法人研修で学び、理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。平成30年5月に、法人内に身体拘束防止対策委員会を設置し、法人全体で身体拘束防止に取り組んでいる。玄関は施錠していないが、事業所が3階にあるため、階段、ベランダ、エレベーター出入口などは施錠している。外出したい利用者には職員と一緒に出て支援し、利用者が閉塞感を感じないようにしている。スピーチロックについては職員間で話し合っている他、管理者やリーダーが指導しているなど、拘束や抑制のないケアを実践している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を定期的実施し、理解及び知識の向上に努めている。またケカンファレンスに合わせて、日常のケアの中に不適切なケアが含まれていないか、具体的に精査し、職員間で共通認識のもと、適切な対応を協議しながら工夫し、虐待防止に取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度を使用している方はいないが、外部・内部研修を通じて理解を深めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際には、利用者や家族の疑問にその都度答えながら、時間をかけて丁寧に説明し、十分な理解を得ながら進めることで、入居後または退居後の生活の不安が軽減できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに苦情受付担当者、苦情解決責任者を設置し、受付体制を契約時に説明したうえで、玄関前にも掲示している。またご意見箱の設置と毎月発行しているさるびあ便りに掲載し、家族の面会時には直接ご意見・ご要望がないかを確認し、ご意見・ご要望が運営に反映できるよう努めている。	苦情や相談の受付体制、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。毎月、来訪している介護相談員が利用者から話を聞いて事業所に伝えている。面会時や電話、メール、行事で家族が来訪した時などに、家族から意見や要望を聞いている。居室の掃除についての家族からの意見には、掃除は見えない箇所にも注意を払うよう、職員間で統一して改善している。「利用者が部屋をまちがえて入ってくるので不安になる」という意見には、職員がヒヤリングを行い、気をつけて利用者の支援に心がけ、居室入口の名前を大きく表示するなどして、改善している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のスタッフ会議の中で、業務改善提案の集約や、職員から個別での相談や提案に応じることが出来るよう、管理者やユニットリーダーとサブリーダーは職員から意見を聞く機会を設け、それらの改善に取り組んでいる。	管理者やユニットリーダー、サブリーダーは、月1回のスタッフ会議の中で、職員の意見や提案、要望を聞く機会を設けている他、申し送り時や日常業務の中で聞いている。日常のケアに関する内容の意見が多く、その都度改善に取り組むなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の段階に応じた職責を確立させたキャリアパス基準を整備して、仕事の業績を適正に評価し、その結果を人事、任用、給与に反映させている。また、年度毎に法人各事業の運営について職員に向けて報告を行い、個々の職員の努力が業績に反映されたことを理解できる機会を持ち、意欲の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は年間計画を作成して、月に一度スタッフ会議に併せて実施している。職員の段階に応じて外部研修へ参加の機会を作り、Off-JTからOJTを意識して、職場全体で技術や知識の習得が出来るように取り組んでいる。</p>	<p>外部研修の情報は、スタッフルームにファイルして掲示し、職員に伝えている。職員の段階に応じて、勤務の一環として、参加の機会を提供している。管理者研修、実践者研修、老人福祉施設中堅者研修、介護支援専門員研修、その他の研修を含めて計9回、管理者を除いて12名の職員が受講している。受講後は、スタッフ会議で復命した後、復命書が閲覧できるようにしている。法人研修は、年間計画があり、高齢者虐待、感染症予防、権利擁護、高齢者のスキンケア、事故防止対策、ハラスメント、コミュニケーション、AED使い方などについて実施している。職員は業務に応じて参加している。内部研修は、年間計画を立て、月1回、スタッフ会議の中で実施している。認知症高齢者の基礎知識、排泄ケアについて、認知症高齢者のBPSD、緊急時対応について、インシデント、事故報告書の記入方法と重要性などについて実施している。新人研修は、外部研修やリーダーを中心にマンツーマンで指導し、働きながら学べるように支援している。</p>	
15		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人全体で実施する研修では、グループワークを取り入れて、特養やデイサービスの職員と意見交換することで、事業所としての課題を見直す手がかりにして、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用開始前に本人が抱えている不安や思いの把握をしていく過程で、しっかりと思いを受け止める姿勢をあらわすことで、サービス開始時に安心して生活がスタートできるように、信頼関係を築くよう努めている。</p>		
17		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用開始前に家族が抱えている不安や思いの把握をしていく過程で、しっかりと思いを受け止める姿勢をあらわすことで、サービス開始時に安心して生活がスタートできるように、信頼関係を築くよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時やサービス導入前の段階で、本人や家族の思いや状況に応じて「その時」必要とする支援を見極め、本人と家族の思いに添えるように柔軟な対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心のつながりを大切にしつつ、日々の生活の中で、出来ることをそれぞれの役割として担っていただき、利用者同士や利用者と職員が互いに労いの言葉がけを通して関係を作り、共に生活する者同士であることを意識した生活が送れるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に考えながら、職員は家族と情報共有しながら、共に本人を支える姿勢で、一緒に考えることが出来る自然な関係を築くよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内では、家族の面会や友人の面会、電話や手紙などのやり取りが継続できるよう支援している。施設外では、家族の協力を得ながら、本人の思いに沿って墓参りや教会への参拝、近所で行きつけの美容院への外出、外食や外泊など、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	家族の面会や親戚の人、友人、知人、宗教関係者、昔住んでいた地域の人などの来訪がある。電話や携帯電話、手紙、年賀状などでの交流を支援している。家族の協力を得て、墓参りや教会への礼拝、行きつけの美容院の利用、外出、買い物、外食、外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特性やそれぞれの関係性を把握して、職員が必要に応じて関わり、一人一人が孤立することなく、また利用者同士が協力して支えあいな合い生活が送れるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に伴い契約が終了された方に関して、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。退居後にご家族と手紙でのやり取りがあり、頂いた手紙を家族に許可を得て職員間で共有した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の言葉や行動、表情や様子などの状況を細かく個別に記録し、利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。それを職員間で共有し本人本位であるということを大切に考えて検討している。	入居時のフェイスシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子や言葉、行動などを、詳しく個別経過支援記録に記録し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、利用者の気持ちを押し量ったり、家族から情報を得て、ケアカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や在宅での生活の様子について、本人と家族や、過去のサービス関係者から情報を収集している。知り得た情報を元に環境を整備することで、馴染みの生活の継続につなげている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人一人の生活状況や、心身の状態と変化、その有する能力を個別に記録し、職員間で情報を共有することで、総合的に現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に定期的にケアカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見を反映させて介護計画を作成している。また介護計画に設定するサービス内容における実施状況をケア目標に照らし合わせて日々チェックすることで、客観的に評価し、それを介護計画に反映するよう努めている。	利用者を担当している職員や計画作成担当者を中心にして、利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見などを参考にして、3ヶ月に1回のケアカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。「実施モニタリング表」で計画のサービス内容を毎日チェックし、3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画を見直している。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直しをして、現状に即した介護計画の作成をしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や実践状況と結果、気づきや工夫など具体的な内容を個別に記録して職員間で共有している。日々の評価とケアカンファレンスによって、その都度課題を抽出して、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々変化する状況に応じて、医療機関の受診支援や、歯科往診等、利用者のニーズに応じて柔軟に支援できるよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度介護相談員の来苑や、地域の方やボランティアなどを受け入れている。ボランティアは地域交流スペースを活用し、日本舞踊や民謡や体操などがあり、利用者も楽しみにしている。また地域の福祉部のふれあいいきいきサロンで七夕の飾り付けが毎年恒例となり、今年も地域の方々と利用者が共同して準備を行い、飾り付けを一緒に楽しむことが出来た。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による週に一度の往診や、定期受診の他にも日々の状況報告や相談をしている。また家族の協力を得て、馴染みのかかりつけ医や専門医の受診が出来るよう柔軟に対応している。	利用者は、これまでのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関による週1回の訪問診療がある他、基本健診や定期受診の支援をしている。看護師が日々の健康観察や受診や服薬などの支援をする。歯科は月1回訪問診療があり、必要に応じて受診している。他科受診は、家族の協力を得て受診の支援をしている。夜間や緊急時には、協力医療機関に連絡をし、指示を得て対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は職場内の看護師や訪問看護師と情報を共有し、相談しやすい関係性が構築できている。適切な受診や看護を受けて、迅速に対応できるよう体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には書面で情報交換を行うなど、安心して治療が出来るよう医療機関との連携に努めている。入院中には退院後の支援に備えて、職員と看護師が入院先を訪ねて、事前に情報交換を行うことで状況把握し、適切なケアの提供につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づいて事業所で出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師と他施設や医療機関への移設も含めながら家族と十分に話し合い、方針を決めて対応している。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づいて、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族の意向にそって、その都度主治医や看護師と相談し、医療機関や他施設への移設も含めて話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	看護職員を講師とする内部研修や、消防署の協力を得て行う外部研修を定期的を実施し、救急救命法やAED訓練等、応急処置や緊急時の対応についての実践力を高めるよう努めている。また事故発生時には速やかに報告書を作成して改善策の検討を行い、実施することで再発防止に努めている。	事例発生時に、その場に居た職員がインシデント、事故報告書に、事故の発生状況や経過、対応などを記入し、その都度職員同士で話し合っ、リーダーや管理者が対応策を検討し、全職員に回覧している。スタッフ会議やカンファレンスで話し合い、事故防止に取り組んでいる。法人研修で事故防止対策についてや、ノロウイルスの感染防止のための訓練、AEDの使い方について学んでいる他、内部研修で誤嚥について学んでいるなど事故防止に努めている。全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとまでは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練と初期消火訓練を実施すると共に、地域住民にも訓練に参加して頂き協力を仰ぐことで、災害時の協力体制を強化している。また災害時に備えて非常食を備蓄している。	法人施設合同で年2回、夜間と日中を想定した避難訓練や消火訓練を実施している。地域住民には、運営推進会議や回覧板で訓練参加の呼びかけをして、5名の参加を得ている。災害時には、法人施設を、地域住民の避難場所として提供している。法人が地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱い、秘密保持に関しては十分に配慮している。内部研修で認知症高齢者のケアについて学び、一人一人の人格を尊重し人生の先輩としてかかわり、思いやりとぬくもりのある言葉かけとケアの実践を心がけている。	職員は、内部研修で認知症高齢者のケアについて学び、人格の尊重やプライバシーの確保を徹底するように努めている。カンファレンスで不適切なケアについて話し合っている。不適切なケアに気付いた時は、職員同士で注意し合ったり、管理者やユニットリーダーが指導し、利用者一人ひとりの尊厳ある姿を大切にして、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が思いや希望を表現できて、自己決定の機会がひとつでも増えるよう分かりやすい言葉や表現で関わりを持つことに努めている。無言症の利用者には、TPOカードや50音表など活用して、発語がなくても表情や仕草から読み取れる本人の思いを大切にしながら本人の意思表示を待つ姿勢で関わりを持ち、家族と連携を図り適切な支援を実施している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、基本的に利用者一人一人の生活習慣の把握と、体調の変化や希望に応じて自分のペースで過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさとは何かを考え、日々の衣類選びと外出時の身だしなみやおしゃれの継続が出来るよう、外出時には化粧品の購入などの支援もしている。希望者には月に一度の訪問理美容による散髪や、行きつけの美容院への外出支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節感のあふれる献立や、利用者の希望のメニューを取り入れ、昼食作りやおやつ作りを充実させることで、食事がひとつの楽しみになるよう工夫している。買い物や準備、片付けを共に行うことで、個々の活躍の場面を意識しながら、美味しく楽しい食卓となるように盛り付けや環境づくりの工夫を行っている。</p>	<p>食事は、三食とも法人からの配食を利用している。事業所では、ごはんと汁物をつくっている他、おかずを温めたり、利用者に合わせて形態(きざみ、とろみ)にして、盛り付けをしている。食器は料理一品毎に料理に合わせてものを使用し、見た目からも美味しく食べられるように工夫している。月に一回以上、利用者と職員と一緒に食事づくりをしている。季節感のある献立を中心に、瓦蕎麦やソーメン流し、七草がゆ、おでん、鶏鍋、カレー、巻き寿司、ちらし寿司、たこ焼き、お好み焼きなど、食材の購入や洗う、切る、煮るなどの調理をしている他、トレー拭き、おしぼり巻き、テーブル拭きなどもしている。おやつづくりは月2回以上実施し、桜餅、ぜんざい、プリン、どら焼き、フルーツパフェ、ところてん、いちごケーキ、おはぎ、バナナケーキ、きび団子、チョコレートフォンジュ、お月見団子などを一緒につくっている。法人の敬老会で家族と食事をしたり、移動パン屋でパンを買って食べたり、おやつ外食や動物園売店での外食、家族との外食などを行っている。管理栄養士が献立をたて、給食委員会で意見や希望を出して検討して、利用者が食事を楽しむことができるように支援している。</p>	
42		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの体調や生活習慣、要望に合わせて配茶を行うなど、水分摂取量の把握をしながら支援している。嚥下状態の把握をすると共に安全に食事が出来るよう、その都度食事形態の調整を行い、自力摂取を促しながら見守り支援している。食事量が低下している利用者には栄養補助食品や捕食を促し摂取カロリーの確保を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後個々の状態に応じた方法で口腔ケアを実施している。入居時には協力歯科による歯科検診の希望を書面で行った上で希望者には歯科検診の実施をし、嚥下機能や咀嚼機能と口腔内の把握を行い、歯科医や歯科衛生士の指導をいただきながら支援している。また訪問歯科診療では、希望者に対して月に一度口腔ケア指導を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者一人一人の排泄パターンを把握している。排泄の失敗がないよう、声掛けを工夫しながら誘導を行うことで、排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の習慣を活かして、一人ひとりに応じた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して排便の記録を色分けすることで、職員が排便状況の把握に努めている。また水分摂取量を併せて記録して、運動や水分摂取量、その他及ぼす原因を理解して、食生活や日常生活から便秘の予防に繋ぐ取り組みをしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回は定期的に入浴ができるよう計画を立て、タイミングや声掛けを工夫し、時には本人の希望に合わせて予定の変更や、体調に合わせて清拭や足浴を行い、本人の意思を尊重しながら、入浴を楽しめるよう支援している。時には入浴剤やゆず湯などの計画を立てて、入浴することを楽しみの一つとして取り組んでいる。	入浴は毎日、10時から昼前までと、14時30分から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週3回は入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて、併設施設の機械浴やシャワー浴、清拭や足浴を行っている。入浴したくない利用者には、日時を変更したり、タイミングをずらしたり、職員の交代や言葉かけに工夫をして対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別記録を活用して、日中の活動量や個々の生活スタイルを把握するとともに、体調や精神面にも配慮をし、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。居室の温度や寝具を清潔に保つなど環境の整備にも配慮を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人ひとりが使用している内服薬の把握をするとともに、副作用や用法用量を服薬ボードで確認しながら、服薬支援している。状態の変化に伴う、内服薬の変更がある場合には、個別記録に重点的に記録することで、看護職員と職員間で情報を共有し必要に応じて主治医に報告と相談し、医療との連携を図っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操やカラオケ大会、個別での外出支援、花や野菜の栽培、能力に応じての手作業や簡単な家事など、日々の生活の中で楽しみや役割を持ちながら、張り合いのある生活が送れるよう支援している。	日記をつける、写真集を見る、新聞や本を読む、テレビ視聴、歌を歌う、カラオケ大会、習字、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙、百人一首、活性ドリル、DVD体操、七夕飾りづくりと飾りつけ、雑巾縫い、プランターでの花や野菜づくり、月1回以上の食事づくり、月2回以上のおやつづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、新聞紙のゴミ箱づくり、ゴミ捨て、トレー拭き、おしぼり巻き、掃除機やモップかけ、手すり拭き、シーツ交換など、利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望を把握し、墓参りや教会、行きつけの美容院、一時帰宅や外泊等、家族の支援を得ながら実現に向けて、個別に外出できるよう連携を図っている。季節の花見や、日用品の買い物支援、地域の行事に積極的に参加して、希望に応じて戸外へ出かけられるよう支援している。外出支援として動物園の見学やサーカスの観覧、喫茶店でのおやつを楽しむことが実現できた。	近くの公園に出かけたり、周辺の散歩や買い物、桜やコスモスの花見、地域の夏祭り、桜木フェスタ、外食、行きつけの美容院の利用、サーカスの観覧、動物園の見学、喫茶店でのおやつタイムなどに出かけている。家族の協力を得ての外出、外食、外泊など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金規定のもと希望に応じて家族よりお金を預かっており、外出時や日用品の購入をしている。出納職員を設け金銭の管理は事業所の金庫にて行っている。週に一度の移動パン屋やマックスバリューの移動販売車で嗜好品の購入では、支払いまで一連の買い物を楽しむことが出来るよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と希望にあわせて自由に手紙のやり取りや、電話が出来るよう取次ぎなどの支援をしている。定期的に教会から届く手紙を楽しみにされ、交流を大切にされている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活室の壁に新たに掲示板を設置して、イベントの写真や、当月のイベントのお知らせや、さるびあ便りの掲載をして、利用者同士が眺めては思い出話をするきっかけとなっている。また季節にあった飾り付けや、室温や湿度など、心地良い環境づくりに努めている。	リビングは、窓から差し込む自然の光で明るく、テーブルや椅子、テレビ、ソファーなどを配置し、利用者が安全に過ごせるように配慮している。観葉植物を置いたり、季節に合わせた飾り付けをして、季節感を採り入れるようにしている。台所から食事の準備の音や料理の匂いがして、生活感を感じることができる。出入口の通路には、利用者一人ひとりの備えつけのクローゼットがあり、衣類や靴、帽子などを納めている。玄関には全職員(勤務者)の写真を掲示して紹介したり、西日が差し込む西側のユニットには、ロールカーテンを取り付けて、日差しの調節をしている。温度、湿度、換気などに配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室では必要に応じて席替えや配置を変更することで利用者同士が楽しく会話をしたり、利用者の状況や希望に応じて静かな空間を作るなどの工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で大切に使用していたテレビや愛着のある家具を自由に持ち込むことで馴染みの生活の継続と、花や装飾品、家族の写真などを飾って、一人一人が心地よく過ごせる工夫をしている。	机や椅子、テレビ、衣装ケース、寝具、位牌、時計、鏡、クッション、歌本、カレンダーなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族の写真や自分の作品(ちぎり絵、ぬり絵など)などを飾って、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内での転倒のリスクが高い場所や職員の目の行き届きにくい場所の把握と、事故防止に配慮した環境整備に心掛けている。歩行補助具を利用する方へ導線や障害物になるものがないかなど配慮も行っている。トイレの場所や自分の居室の場所がわかるように張り紙で表示するなどの工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームさるびあ

作成日：平成 31 年 2 月 5 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当や初期対応の訓練を定期的を実施し職員全員が実際の場面で活かせる技術を習得をする必要がある ・事故防止について重要性を理解し、職場全体で意識の向上を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当や初期対応の訓練を定期的を実施し全職員が実践力を身につける事で、急変時や事故発生時に、慌てず適切な行動がとれる ・職員全員が事故防止の重要性を理解し意識の向上を図ることで事故防止につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に看護職員を講師とした内部研修や消防署の協力を得て行う研修を実施する。また外部研修に参加することによって、職員全員が緊急時の初期対応の場面で、実践的に活かせる技術の習得に取り組む ・事故防止の対策について、ケアカンファレンスで個別に話し合いの場を持ち、随時検討する ・対策の徹底や記録を充実させ、職員間また医療機関など情報共有する 	12ヶ月
2	8	高齢者虐待防止について理解を深め、未然防止の取り組みをチームで実践する必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止法の趣旨及び内容について職員全員が正しい知識を習得する ・虐待防止に向けて対応方針や情報を職員間で共有して、問題へ対処していくチームケアを実践する 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止法の趣旨及び内容について研修を実施することで、職員全員が正しい知識を習得する ・認知症高齢者の行動について個別に理解を深める ・ケアカンファレンスにおいて日常生活の中に虐待につながりかねない対応が含まれていないか、ご利用者毎に具体的に検討することで高齢者虐待を未然に防止する ・問題の共有、対策の検討と実行、評価と見直しを行いチーム力の向上を図る 	12ヶ月
3	41	生活の大きな要である食の充実を図り、楽しみの一つとして満足感につなげたい	温かい雰囲気の中で、食事の充実を図ることで、食事を楽しみの一つとして感じることができる	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感のあるメニューや環境を工夫することで食事の充実を図る ・やってみたいや食べてみたいという、前向きな意見や気持ちを引き出す ・暮らしの場面として買物、調理、食事、後片付けなどを通して、利用者個々の力を生かす ・安全面と衛生面に配慮する 	12ヶ月

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
4	50	個別のニーズに合わせてと共、外出などの支援を充実させることで、生活の質の向上につなげたい	日常的な外出支援や、利用者の状態や習慣、有する能力、希望、季節や地域の状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しむことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者一人ひとりの思いや意向に関心を持つ ・意見や要望を把握する為のアプローチを一つ一つ丁寧に行う ・利用者の状態や習慣、有する能力、希望、季節や地域の状況に応じて個別に支援する ・希望や状況に応じて、できる支援を検討し、提供する 	12ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。